



第28回

長岡しんきん業種別景気動向調査レポート

実績：平成21年10月から平成22年3月 予想：平成22年4月から平成22年9月

平成22年4月発行

長岡信用金庫 総合企画部

<電話>0258-36-4344

<MAIL>shinkin@nagaoka-shinkin.com

<URL>http://www.nagaoka-shinkin.com

結果概要

主要DI(業況、売上、収益)を含む8項目で予想を上回る大幅な好転。来期予想は5項目で好転となるが、慎重さがうかがわれる。

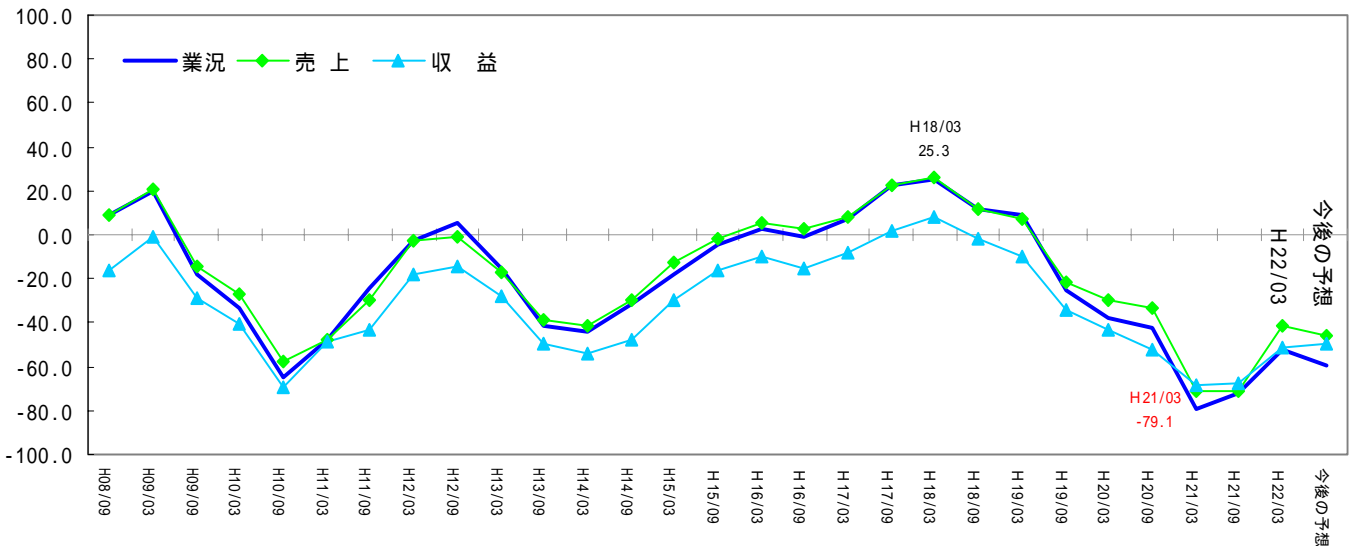
(全業種)今回DIと前回DIの比較

Table with 5 columns: Item, Previous Actual, Previous Forecast, Current Actual, Current Forecast. Rows include 業況, 売上, 仕入価格, 販売価格, 収益, 在庫, 受注残高, 資金繰り, 人手, 設備状況.

今回実績との差異(変動幅)

Table with 3 columns: Comparison with Previous Actual, Comparison with Previous Forecast, Future Outlook. Rows show numerical differences and qualitative trends for various items.

(全業種)主要DIの推移



業況DIは、過去最低の79.1を記録した平成21年3月期から26.4ポイント好転、2期連続好転となった。

前回調査と比べると10項目中8項目が好転。そのうち5項目(業況DI、売上DI、収益DI、受注残高DI、資金繰りDI)が10ポイント以上の好転となった。また、ほとんどが前回調査での来期(H21/10~H22/3)予想を上回る結果となった。

景況は底を脱し、着実に回復していると見られる一方で、先述の10ポイント以上好転した5項目のうち4項目(業況DI、売上DI、受注残高DI、資金繰りDI)が来期(H22/4~H22/9)は悪化を予想。残りの1項目(収益DI)についても1.7ポイントの好転と、先行き見通しについては慎重な態度がうかがわれる。

業況DIは製造業、卸売業、小売業、その他で好転。建設業は厳しい状況が続く。

(業種別) 今回DIと前回DIの比較

	製造業			建設業			卸売業			小売業			その他		
	前回	今回	予想	前回	今回	予想	前回	今回	予想	前回	今回	予想	前回	今回	予想
業況	-81.0	-40.2	-42.3	-56.2	-72.3	-78.7	-75.0	-66.7	-57.1	-69.6	-63.6	-72.7	-72.2	-46.2	-74.4
売上	-77.8	-25.8	-33.0	-60.4	-61.7	-66.0	-45.0	-61.9	-38.1	-78.3	-50.0	-54.5	-77.7	-41.0	-51.3
仕入価格	-8.5	7.2	7.2	6.4	-6.4	-10.6	-15.0	-9.5	4.8	-9.0	-4.5	-13.6	-21.2	-11.1	-8.3
販売価格	-61.7	-56.7	-44.3	-56.3	-42.6	-57.4	-30.0	-40.0	-25.0	-52.2	-27.3	-27.3	-50.0	-45.9	-40.5
収益	-79.0	-44.3	-42.3	-64.6	-68.1	-72.3	-45.0	-42.9	-33.3	-60.9	-45.5	-36.4	-61.1	-56.4	-56.4
在庫	-3.5	5.7	-1.2				25.0	10.0	5.0	21.8	23.8	14.3	0.0	-22.2	-33.3
受注残高	-60.2	-28.3	-31.9	-46.8	-55.3	-68.1									
資金繰り	-58.0	-40.2	-44.3	-39.5	-40.4	-44.7	-20.0	-38.1	-38.1	-52.1	-27.3	-40.9	-38.9	-28.2	-25.6
人手	39.0	11.3	10.3	8.4	23.4	29.8	15.0	19.0	14.3	8.7	13.6	-4.5	13.9	2.6	0.0
設備状況	20.0	10.3	3.1	-11.1	-8.5	-6.4	0.0	4.8	0.0	10.5	-4.5	-4.5	0.0	-5.1	-10.3

<製造業>前回実績比では、業況DI(40.8p)、売上DI(52.0p)、収益DI(34.7p)、受注残高DI(31.9p)、資金繰りDI(17.8p)で大幅な好転が見られるが、見通しは慎重。

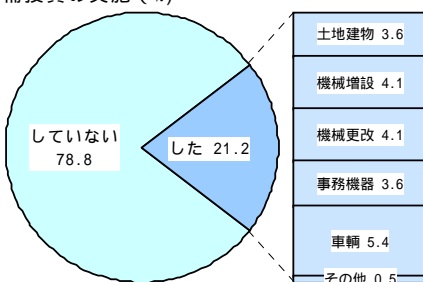
<建設業>前回実績比では、他の業種とは反対に、業況DI(-16.1p)、収益DI(-3.5p)、受注残高DI(-8.5p)、人手(15.0p)で悪化。見通しもほとんどの項目で悪化を予想。厳しさがうかがわれる。

<卸売業>前回実績比では、業況DI(8.3p)、収益DI(2.1p)の好転は他業種に比べ鈍い。売上DI(-16.9p)、販売価格DI(-10.0p)、資金繰りDI(-18.1p)の悪化が影響か。見通しはほとんどの項目で好転を予想。

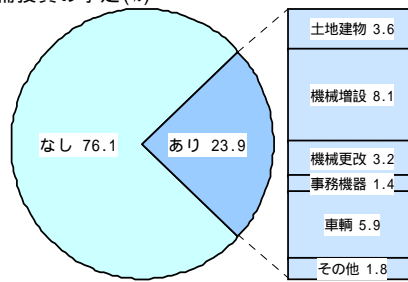
<小売業>前回実績比では、業況DI(6.0p)、売上DI(28.3p)、収益DI(15.4p)、資金繰りDI(24.8p)で好転。人手DIは過剰を示す。見通しは業況DI(-9.1p)、資金繰りDI(-13.6p)の悪化、収益DI(9.1p)は好転。在庫、人手での調整がうかがわれる。

設備投資の動向(%)

設備投資の実施(%)



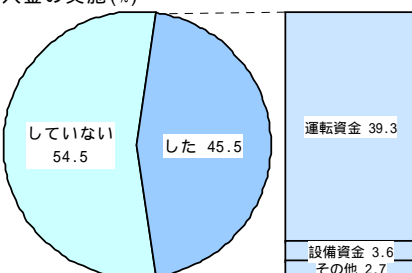
備投資の予定(%)



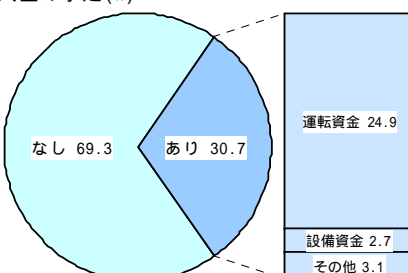
設備投資をした企業は
 製造業が12.6% 建設業が28.3%
 卸売業が14.3% 小売業が31.8%
 その他が31.6%
設備投資の予定がある企業は
 製造業が21.1% 建設業が19.6%
 卸売業が28.6% 小売業が27.3%
 その他が31.6%

借入金の動向(%)

借入金の実施(%)



借入金の予定(%)



借入金をした企業は
 製造業が43.8% 建設業が41.3%
 卸売業が47.6% 小売業が50%
 その他が51.3%
借入金の予定がある企業は
 製造業が30.2% 建設業が31.9%
 卸売業が38.1% 小売業が31.8%
 その他が25.6%



経営上の問題点 (%)・・・上位5項目(複数回答、1先3項目選択)

	全業種		製造業		建設業		卸売業		小売業		その他	
	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回
売上の停滞減少	26.1	25.8	25.7	25.6	26.1	25.0	26.7	21.9	22.2	23.5	29.0	29.4
利幅の縮小	17.1	16.0	18.2	18.6	20.9	18.1	15.0	12.5	11.1	13.7	14.0	10.3
同業者間の競争激化	16.9	17.8	11.5	12.8	24.6	25.0	21.7	21.9	20.6	21.6	15.9	17.6
販売先からの値下げ要請	7.6	6.5	11.9	8.7	3.7	5.6	6.7	9.4	1.6	0.0	5.6	5.9
取引先の減少	4.6	4.8	3.7	4.7	1.5	0.0	10.0	12.5	7.9	5.9	5.6	5.9

当面の重点施策 (%)・・・上位5項目(複数回答、1先3項目選択)

	全業種		製造業		建設業		卸売業		小売業		その他	
	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回
販路を広げる	25.8	27.3	25.1	27.8	25.8	27.1	30.4	33.3	23.7	23.9	26.4	25.8
経費を削減する	24.7	25.4	23.1	24.1	28.8	31.4	26.8	23.3	20.3	19.6	24.5	27.3
情報力を強化する	11.4	10.4	9.6	6.3	12.9	12.9	10.7	13.3	10.2	10.9	15.1	16.7
技術力を強化する	9.8	9.1	12.4	11.4	9.1	10.0	3.6	0.0	5.1	4.3	10.4	9.1
人材を確保する	5.8	5.9	6.0	7.0	5.3	2.9	3.6	3.3	8.5	10.9	5.7	4.5

調査員のコメント

<製造業>

- ・平成 21 年後半は代表者の人脈を生かし、関東方面へ営業強化。小口の受注取り込みで、地元主力先の受注減少をカバー。今後は受注回復見込み。
- ・受注は前年より減少しているものの、当社の技術・機械設備の充実などが評価されており、一定量は確保している。収益面も比較的安定している。
- ・業界内では落込みが少ない方である。昨年より役員報酬等コスト削減に努め、減収ではあるが利益確保の予想。現状維持での景気回復に期待。
- ・売上減少は容認している。さらなる経費削減のため保有車輛(3台)の売却、廃車を実施。定年退職者は自然減のままとし、年間10百万円の経費削減を目標としている。
- ・仕事の量は出てきたが短納期、低単価の状況続く。先行き景気回復するのが確実であれば、採算の悪い受注は断るが、見通し不透明であり、仕事の量を優先して受けている。

<建設業>

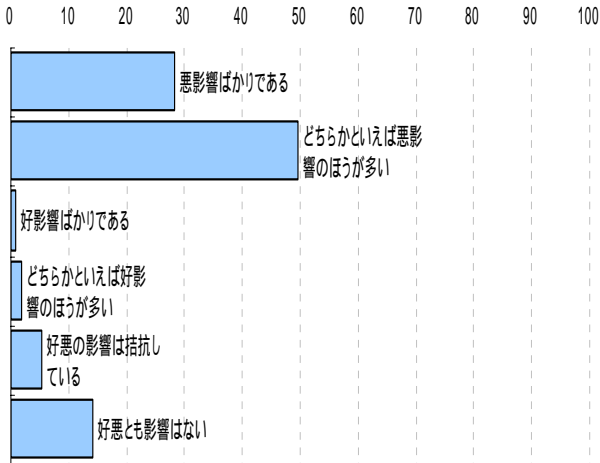
- ・厳しい土木建設業界にあって、管理が徹底されており収益確保している。しかし、今年の見通しは不透明感が根強く、悪化傾向とみている。
- ・積極営業で受注確保しているが、材料価格の上昇や単価の引下げにより採算面は厳しい。
- ・現在は受注も出ており、雪による影響もなくなったことから仕事は順調であるが、収益環境は悪化。工事代金回収の長期化により、資金繰り多忙。
- ・平成 21 年度は個人住宅新築戸数が大幅に減少し、売上も減少。3月中に当社単独と他社協調で新築キャンペーンを行う。消費者は、景気落込みで慎重になっており、今年度の住宅業界の見通しは厳しい。
- ・公共工事が減少、民需も低迷しており先行き業績悪化を懸念。

<その他の業種>

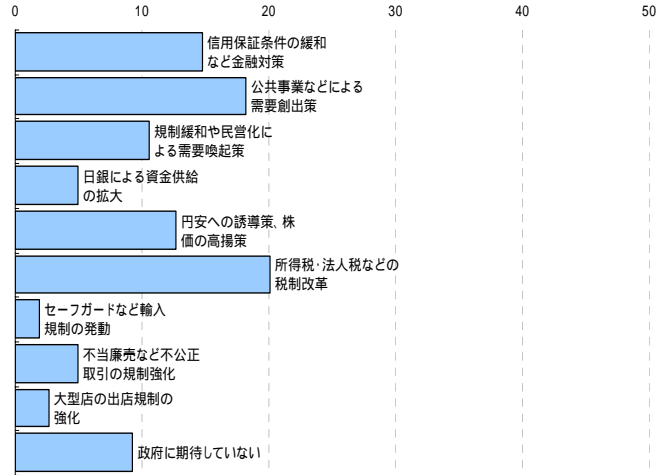
- ・若手主体の営業体制で、経営管理も確立されており業況は順調に推移。(サービス業)
- ・売上はピーク時から30%程度減少。今期は前期より10%程度増加を見込んでいる。給料体系、能力給のウェイトを改め、若い人のやる気を引き出している。(小売業)
- ・業況は若干上向き傾向にあるが、回復までは至っていない。作業費価格については、取引先からの値引き交渉などあり利幅が減少している。政策に期待するとともに、自社での経費削減等に努めていく。(小売業)

特別調査 『デフレ不況下の中小企業経営』

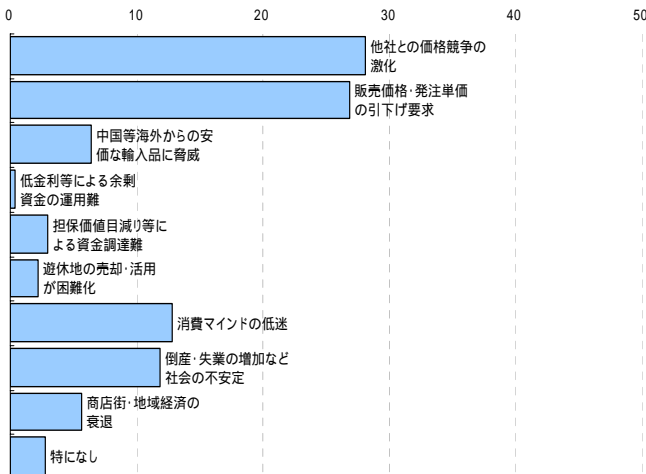
Q1. デフレの進展は、貴社の企業経営にとってどのように影響していますか？（％）



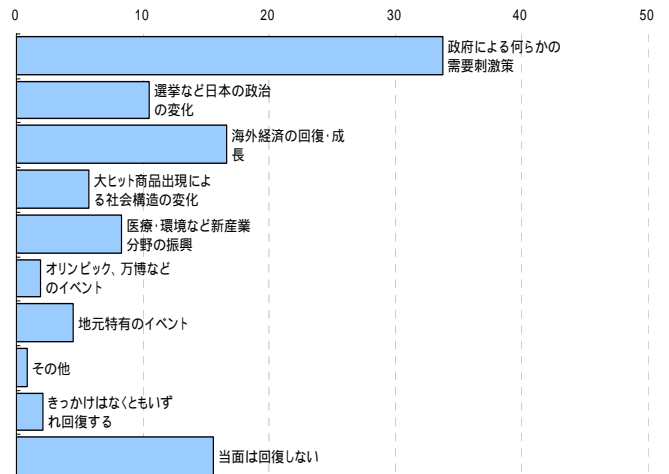
Q4. デフレ不況に対して政府がとるべき施策について（3つ以内）（％）



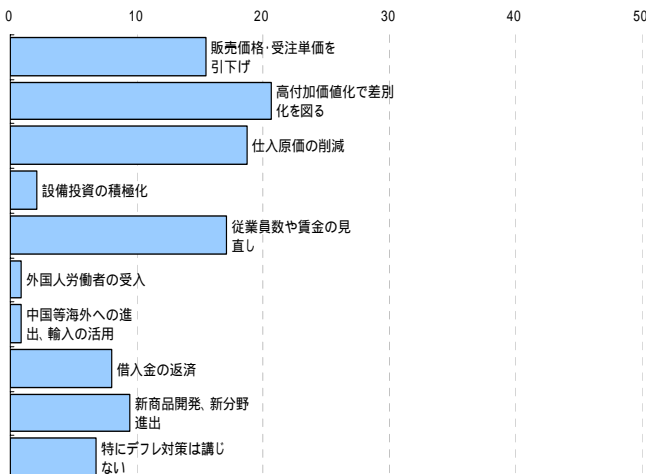
Q2. 貴社の企業経営上デフレの進展によるマイナス面の影響度合いが大きいもの（3つ以内）（％）



Q5. 現在のデフレ不況から回復するきっかけとして、貴社が期待するものはありますか？（3つ以内）（％）



Q3. デフレが進展する中、貴社ではどのような経営方針を採用しますか？（3つ以内）（％）



第28回 長岡しんきん景気動向調査 調査要領

調査時点	平成22年3月
調査方法	当金庫職員による「聞き取り調査」
対象期間	実績：平成21年10月～平成22年3月 予想：平成22年4月～平成22年9月
調査地域	当金庫営業地域 (長岡市、南魚沼市、見附市、小千谷市)
調査先	227先
回答先	227先(回収率：100%)
分析方法	D.I.(Diffusion Index) 「良い」とみる割合から「悪い」とみる割合を引いたもの。